

ま
ら
り



代表取締役
三木 保人 氏

取締役会長
三木 保典 氏

～人にも環境にもやさしい技術で暮らしを支え、未来を拓く～

三木理研工業株式会社

Company
Profile

代 表 者 三木 保典 取締役会長
三木 保人 代表取締役
創 業 昭和42年7月27日
事業内容 潜熱蓄熱材・建材用薬剤・繊維用仕上げ剤の開発製造他
本 社 〒640-8441
和歌山市栄谷13の1
TEL:073-451-2271
FAX:073-451-2639
桃山工場 〒649-6112
紀の川市桃山町調月字奥新田1758-7
TEL:0736-66-0565
FAX:0736-67-7011

今回訪問したのは、昭和42年創業の化学薬品開発製造会社である三木理研工業株式会社です。住宅建材用の空気清浄化剤や、大手量販店の冷感素材の掛け布団などに採用されている潜熱蓄熱材など、人と環境にやさしいものづくりを日々目指し、開発に取り組まれています。今回、取締役会長の三木保典氏(当商工会議所 常議員)に創業からこれまでの歩みについて、代表取締役の三木保人氏には、これまでの取組やこれからへの想い、また社外での活動についてお話をいただきました。



〈会社ホームページ〉



〈会社Instagram〉

「創業からの歩み」 (三木取締役会長)

当社は、昭和42年に創業し、地場産業である繊維産業と共に歩んでまいりました。創業当時は、織物を染色後、柔軟性など風合いを向上させるための繊維加工仕上剤の製造からスタートし、その後、時代のニーズに合わせてその技術を多様な分野へと広げていきました。創業者は私の父(三木保二)で、元々、和歌山市内の染色工場や大阪の堺にある化学会社に勤務していました。そこで、生地染色や風合いにおいて長けた技術を身につけ、「ミキリケン化学工業株式会社」として和歌山市島崎町で創業したのははじまりです。当時、私は学生で、日々、父が昼夜問わず仕事をしている後ろ姿を見ている中で、家業を継ぐ決心をし、学校を卒業後、他社での勤務経験を積んだ後、昭和46年に当社に入社しました。入社後は、接着剤をはじめとした建築資材の営業担当として、全国各地を飛び回っていました。当時の出来事で記憶に残っているのは、第一次オイルショックの時です。原料が枯渇し入手が非常に困難な状況でしたが、当社に至っては、創業当時からお世話になっている商社のお力添えで優先的に原料を確保でき、生産が続けられたことで、得意先の需要に応えることができました。これは、父が常日頃から商社をはじめ取引先と強い信頼関係を築いてくれたおかげであり、この経験から父の経営者としての仕事に対する姿勢を学びました。

また、私が社長に就任してからですが、当社の薬剤で加工したレーヨン裏地から異臭がするというクレームが発生し、デパートに並んだ婦人服が回収されるということがありました。損害もさることながら、気持ちが折れそうな状況でしたが、社長がそのようなことではだめだと自身を奮い立たせ、誠意をもって対応することで何とか解決に至ると共に、改めて品質管理体制を見直し、更なる技術開発力の強化を進めるきっかけにもなりました。

私は、昨年2月に息子の三木保人に社長を承継しました。約10年程かけて準備を進めてまいりましたが、その中で様々な課題について話し合いながら改善を図り、新たな体制にスムーズに移行できたと考えております。この目まぐるしく変化する時代において、今後も様々なことが待ち受けているでしょうが、現社長には創業者から受け継ぐ三木イズムのもと、社長が思い描く未来図を社員と共に描いていってほしいと考えています。

「未来を描く」 (三木代表取締役)

私は、大学在学中、ちょうどインターネットが普及し始めた頃で、eコマースについて勉強していたことや、車に興味があったことから、インターネットを通じて海外に車の部品を販売したり、その儲けた資金で海外を旅し、資金がなくなれば現地で働きながらまた旅をするなど自分のやりたいことに熱中する学生でした。大学卒業後は、一般社員と同様に面接を受け当社に入社し、先輩社員の方々に仕事を教えてもらいながら、工場や研究室で経験を積ませていただきました。様々な部門を経験し会社全体が見えてくるなかで、自身の知識が足りないところは、退社後に専門学校に通うなどしておりました。そのような中、30代になると経営という視点から社内外を見るようになり、自分なりに課題や問題点に気づくようになりました。35歳の

時に役員に就任しましたが、それ以降、自身が主体となって改善に向け取り組んでまいりました。

具体的には、当時、製品の原価計算があいまいで、経費に対してそれに見合った対価を得ていないことに気づき、数千万円を投じ原価計算をDX化し、製品別原価の可視化を行い、利益重視への転換を図りました。

また、当社には、研究開発・製造・営業など、様々な部門でプロフェッショナルがいますが、当時は各部門同士で壁があったように感じていました。本当の意味での強い会社を築いていくためには、部門ごとの協力連携が不可欠だと考え、各部門の垣根を低くし、風通しのいい社内の雰囲気づくりにと、定期的に社屋の屋上でバーベキュー大会の開催など、コミュニケーションを取り合える職場環境を意識しました。

さらに、若手人材の採用も積極的に行うようにしました。採用をストップしていた時期があったこともあり、私が役員に就任当時、私より若い社員はほとんどいませんでした。会社を永続的に繁栄させるためには、若い人材の採用・育成が大事で、最近は高卒・大卒・大学院卒と幅広く採用しています。学歴、年齢は違いますが、それぞれがお互いを高めあい切磋琢磨しながら良い関係を築いてくれています。

社員ともよく話すのですが、売上が2倍になったとしても、社員数は2倍で、その分悩み事も2倍になる。会社の規模拡大も大事ですが、それよりもっと大事なことは、「価値ある製品を開発し続けること」だと考えています。当社の主力商品である建築資材のホルマリンキャッチャー剤も、開発当時はあまり必要とされていませんでした。しかし、頭痛やめまいといったシックハウス症候群が社会問題になるにつれ、需要は増していきました。

また、大手量販店の冷感素材の掛け布団に採用いただいている蓄熱素材においても、昨今の省エネ志向やコロナ禍での巣ごもり需要にマッチし、大変好評いただいています。今後も引き続き、当社のスローガンである「やさしさ創造コーポレーション」の名のもとに、もっと人や環境に優しいものづくりを目指していきます。

「社外活動について」 (三木代表取締役)

私は、会社外での活動もいくつかさせていただいています。その一つが、妻が和歌山で立ち上げた一人である「一般社団法人わかやまシュタイナー学園」の運営です。私も含め、「この教育を子どもに」と願う親御さんの想いが集まり設立に至りました。当学園では知識を早期に詰め込むのではなく、思考・感情・意志(頭・心・体)をバランスよく育てることを重視し、絵画・音楽・オイリュトミー(身体表現)など芸術的活動を教科学習に統合しているのが特徴のオルタナティブ教育を行っております。

また、和歌山市内の中学生へのキャリア教育の一環で、学校法人山本学園IBW美容専門学校 副理事長の山本理恵さんが代表を務めている「未来スクール」にも積極的に参画しています。地元和歌山での就職を選択肢の一つとして子どもたちに認識してもらうために、地元の多種多様な業種の大人たちが「働くこと」の楽しさや大変さをリアルな体験を交えて話してもらいます。参加いただく中学校も年々増えてきています。今後も、和歌山の未来に携わっていければと考えています。